



名古屋大学における イノベーション創出に向けた取組について

名古屋大学 総長補佐
学術研究・産学官連携推進本部 副本部長
藤巻 朗

平成26年3月14日
イノベーション創出機能強化作業部会

名古屋大学の現状 —研究の質等—

国立総合大学内での名古屋大学の位置

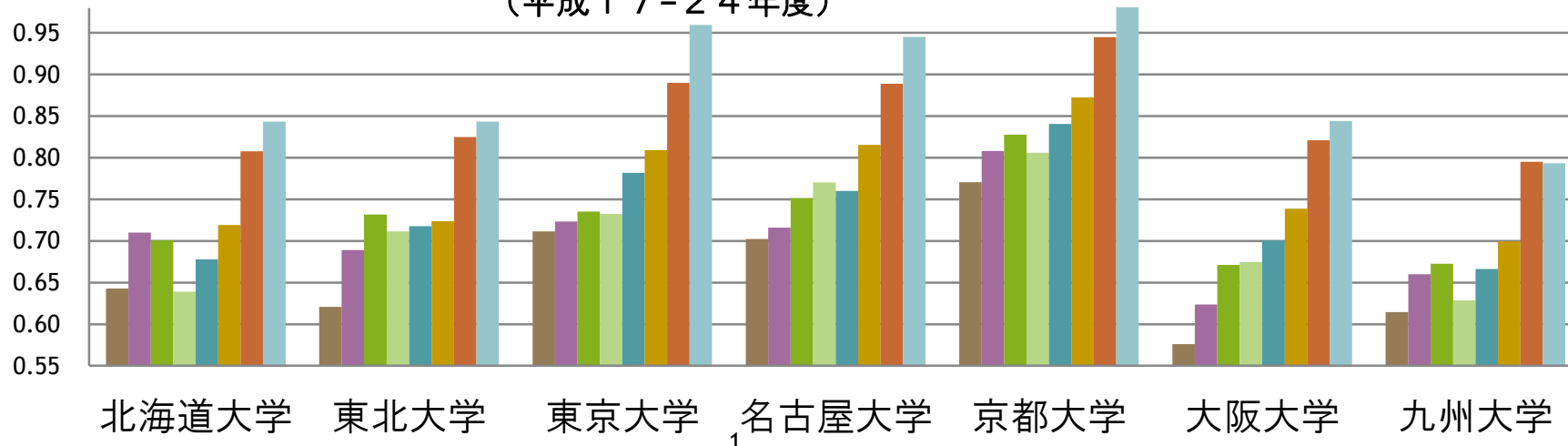
◆ 研究の質

- ・ 教員一人当たりの科研費採択数（受入金額） 第2位（第3位）
- ・ 教員一人当たりの受託研究受入件数（受入金額） 第2位（第5位）

◆ 国際性（H19～H23の平均）

- ・ Q値（被引用率上位10%論文数/全論文数） 第3位
- ・ 国際共著論文の割合 第4位

研究者一人あたりの科研費受入件数（受入件数（新規＋継続）/研究者数）
（平成17～24年度）

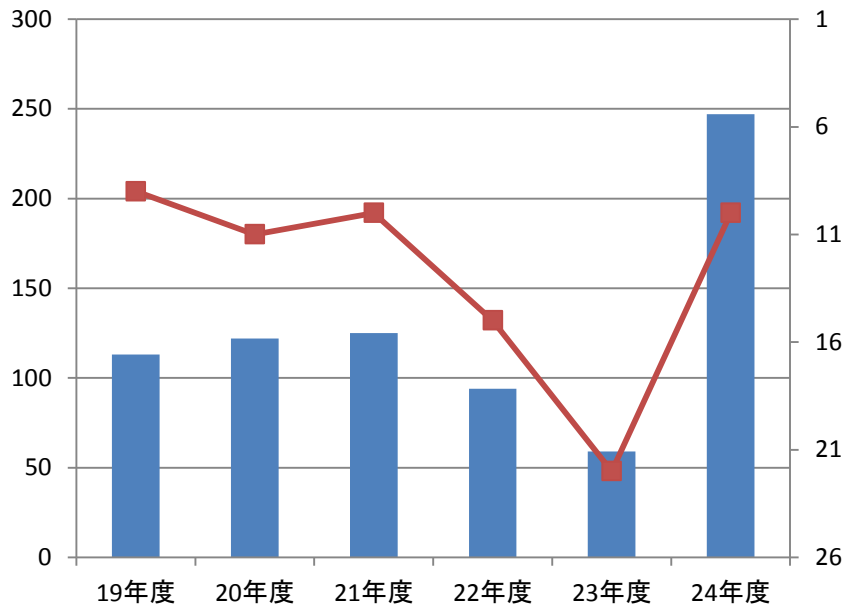


研究者一人あたりの受入件数

名古屋大学の現状 ー知財の活用ー

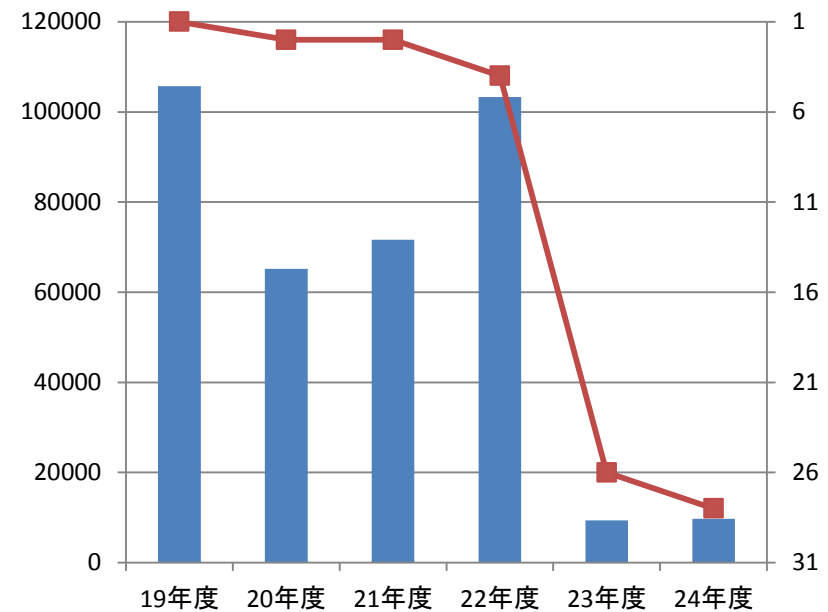
特許権実施等件数

■ 件数
■ 順位



特許権実施等収入額(千円)

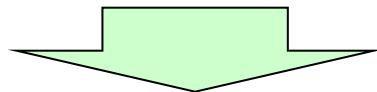
■ 収入額
■ 順位



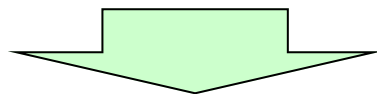
出典: 文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について」に基づき作成

「自立化促進プログラム」の取組み・展開

- 「機能強化支援型」により、産学官連携推進本部における技術移転、国際的な産学官連携等についての体制を強化
- 「コーディネーター支援型」により、あいちシンクロトロン光センターの立ち上げ、活用の支援を実施



- 本学の特許の海外企業へのライセンス、パッケージ化した特許の国内企業への技術移転、本学の企業との新たな共同研究の開始などの成果
- 一方で、研究の企画段階からの技術移転を想定した取り組みの必要性、人的リソースの更なる拡充と専門性向上が必要であることが明らかに



このため、

- ✓ 産学官連携と学術研究を支援する仕組みを抜本的に改革
- ✓ 併せて、自主財源等を活用しつつ体制を一層拡充

イノベーション創出に向けた取組み

- 博士課程リーディングプログラムを通したイノベーションマインドの醸成
 - オールラウンド型など6プログラムが採択
 - 文系・理系の知恵の結集
 - 企業人のメンター採用
- 研究者データベースの構築
 - URAが各研究者の強みを把握し、課題解決型プロジェクトに対する最適なチーム構成を提案
- 学内研究会の設置
 - 大括りのテーマを設定し、学内からフィージビリティスタディの提案を公募。研究会を実施。

意見集約へ向けた新たな取組み

- 目的： 「研究力強化」 のために何が有効か現場の声を聞く (今回は若手研究者対象)

2013年 10月-11月

テーマを設定する

Round Table
(濱口総長、國枝理事、
藤巻教授を囲んで1時間)

12月

議論を深める

Jam
(Online Discussion)

結果をまとめる

結果発表

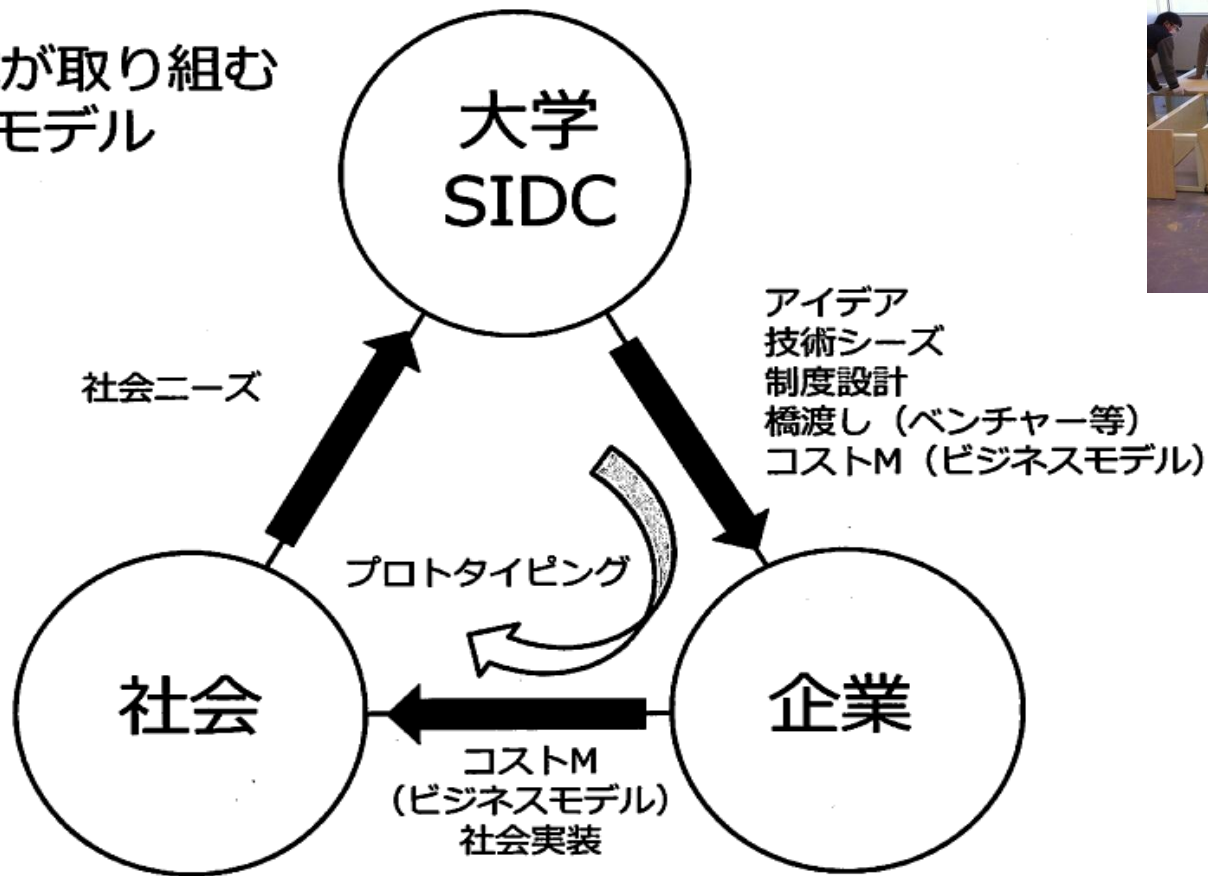


博士後期課程学生	12人 × 2回
PD・特任助教	17人 × 2回
助教	17人 × 2回
講師・准教授	19人 × 2回
事務職員	19人 × 2回

博士後期課程学生	84人(2週間)
PD・特任助教	
助教	
講師・准教授	
事務職員	

新たな取り組み 社会イノベーションデザイン学センター

SIDCが取り組む
モデル



大学等シーズ・ニーズ事業による 対話型ワークショップ

目的

技術的なものから社会の変化を視野に入れた、社会イノベーションの創出が課題である

- 産学連携のあり方を一新する

個人の中にある潜在的な社会ニーズ、さらに集団の中にある潜在的な社会ニーズを可視化する方法論が未構築である

- 社会ニーズの可視化を目指した方法論を導く

技術イノベーションを取り込み、社会イノベーションを誘導するプロセス論が未構築である

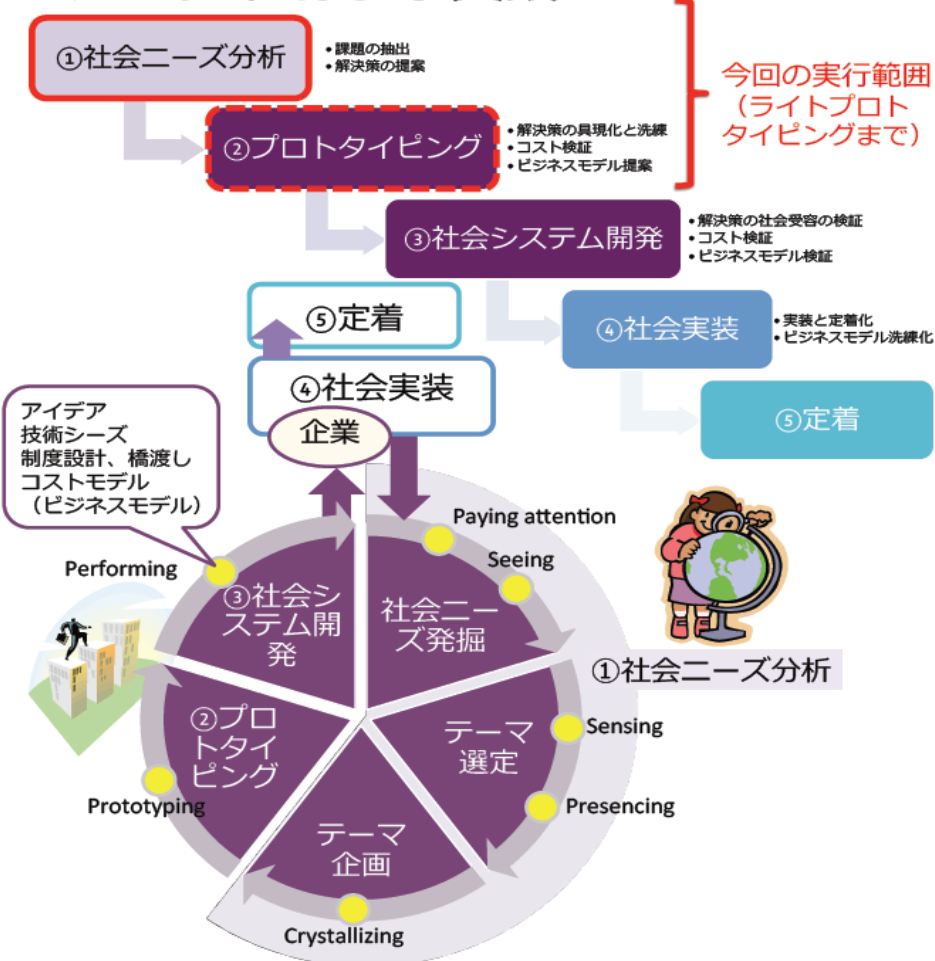
- 社会実装へのプロセス論を構築する

課題解決のための異分野の専門家チームの結成が不可欠である

- 新たな教育研究組織を立上げる



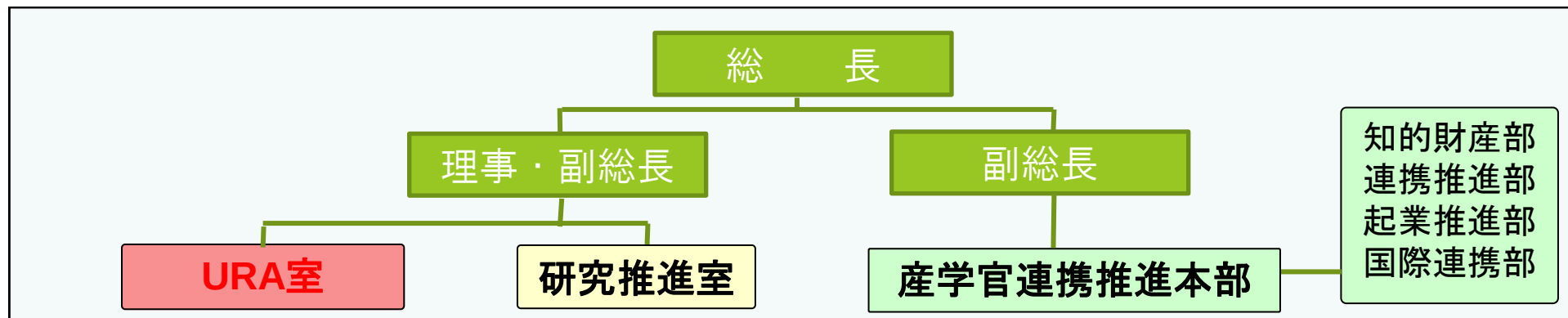
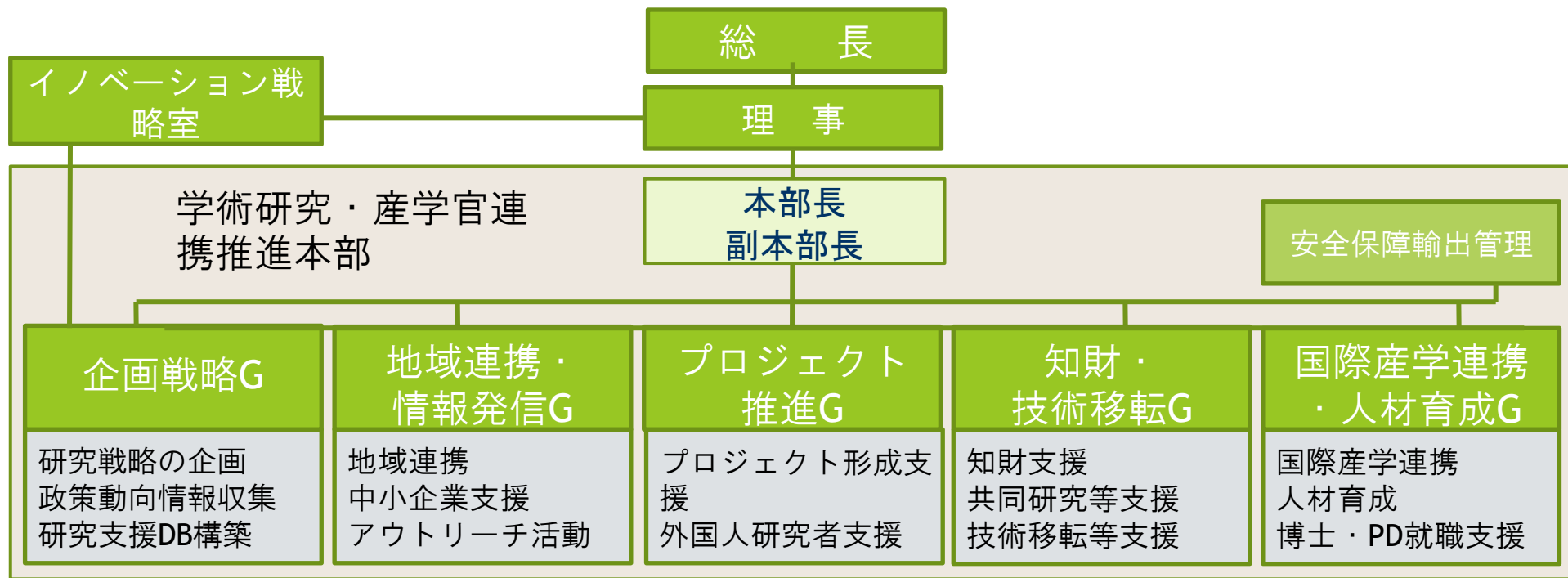
コンセプトおよび実践



研究支援体制の抜本的見直し

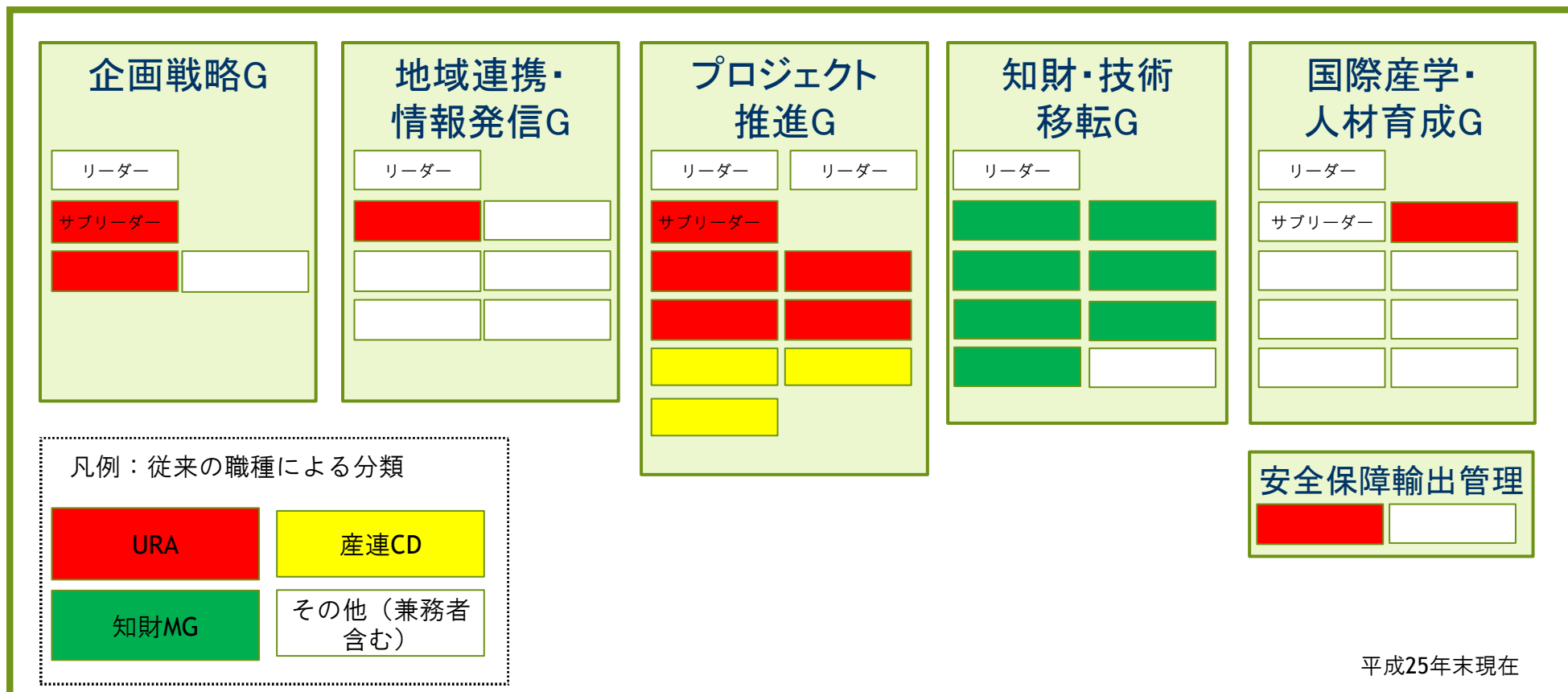
1. 担当理事・副総長の下で3つに分かれていた組織を一元化し、一貫した、かつ**総合的な研究支援体制とするため、新たに「学術研究・産学官連携推進本部」を新設。**
2. **URA、産学連携CD、知財マネージャー等**の新本部に所属するスタッフを専門能力に応じて各グループに配置し、**同一の指揮命令系統の下で協働。**
3. これら新本部において研究支援を担当する人員と今後採用するCOI拠点等の研究支援人材の**全てをURAと位置づけ、人材育成やキャリアパス、評価、処遇・人事を一元化**することを検討中。
4. 新本部において現状34名の研究支援を担当する人員を**44名まで増強**し、さらに体制を強化する予定。

学術研究・産学官連携推進本部の設置



本部スタッフを広義のURAと位置づけ

- ✓ **URA、産学連携CD、知財マネージャー等**の新本部に所属するスタッフを専門能力に応じて各グループに配置し、**同一の指揮命令系統の下で協働**。
- ✓ これら新本部において研究支援を担当する人員と今後採用するC O I 拠点等の研究支援人材の**全てをURAと位置づけ**。



本部スタッフの処遇、人材育成一元化

新本部において研究支援を担当する人員と今後採用するCOI拠点等の研究支援人材の**全てをURAと位置づけ**。

このため、従来のシニアURA、URAに加え、**新たに主幹URA、主任URAを設けることを検討中**。今後、**人材育成やキャリアパス、評価、処遇・人事の一元化**を目指す。

		新設			
呼称	シニアURA	主幹URA	主任URA	URA	
職種	大学教員				
職名	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教又は 研究員	
給与	年俸制				
勤務時間	裁量労働制				

本部スタッフの能力開発等

本学独自の取組として、本部スタッフに対するURA研修を実施中。今後、近隣の大学/研究機関との間で共同で実施することも視野に入れて検討中。

このほか、学内の教員・事務職員等も対象として、知財セミナーや特許基礎セミナーを開催している。

URA研修

講師：佐々義子氏（NPOくらしとバイオプラザ21）

日時：10月25日（金）15:00-16:30

テーマ：バイオテクノロジーをめぐるリスクコミュニケーション

講師：藤巻朗先生（名古屋大学）

日時：12月3日（火）10:00-11:00

テーマ：研究支援組織の役割

講師：関堂幸輔氏（大阪工業大学知的財産学部）

日時：12月9日（月）16:00-17:30

テーマ：著作権の取り扱いについて

講師：山崎茂明氏（愛知淑徳大学）

日時：1月30日（木）14:30-16:00

テーマ：ミスコンダクトと解法としての発表倫理



名古屋大学 知的財産特別セミナー(3)
Nagoya University

特許を巧く活用する為に
—3次元プリンターの創作を事例に—

◆ 講師：小玉 秀男氏
快友園特許事務所 弁護士
経歴：名古屋大学大学院 卒業
名古屋工業研究所 入所
快友園特許事務所 設立
現在に至る

◆ 対象：新技術の研究開発と普及に関心を持つ人

・3次元プリンターは立体の物を印刷するようにつくりだす技術で、ものづくりに革新を起こすとして注目されています。
・本セミナーでは、この技術に最初に取り組まれた研究者であり、現在は弁護士として活躍の小玉秀男先生より、ご自身で発明した3次元プリンターがその後どのように活かされ、現在の3次元プリンターに発展したのか、研究者及び高い弁護士の経験を通して得た「特許をうまく活用する心得」等も交えて、研究者や学生の皆様に向けてご講演をして頂くことになりました。皆様のご参加をお待ちしております。

< 講義 > 40分
・3次元プリンターの誕生の過程
・新技術に対する世間の評価
・特許に関する3つの失敗
< 質疑 > 20分
・質疑応答を行います

◆ 開催日：平成26年1月21日(火)16:00-17:00
場 所：名古屋大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
3階 ベンチャーホール
◆ 参加費：名古屋大学内外の関心のある方
◆ 参加費：無 料
◆ お申込み方法
所属、氏名、
E-mail: ichi
◆ 主催：名古屋大学



平成25年度
第5回目

名古屋大学

第79回特許基礎セミナー

—研究成果を特許出願するための知識—

特許出願が未経験の方や、特許調査等について最新のスキルを修得したいと考えている教職員・研究者の方々に対象に、特許基礎知識と特許調査の方法についてセミナーを開催します。

・開催日：平成26年1月20日(月)13:30~17:00
・場 所：名古屋大学 VBL 3階 ミーティングルーム
(VBL:ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー)
・主 催：名古屋大学 産学連携推進本部 知的財産部
・プログラム
< I 部 > 13:30~15:00
「特許の基礎知識と特許出願書類の作成方法」
講師：名古屋大学 産学連携推進本部 知的財産部
スーパーバイザー 工学博士 石野 暁
・名古屋大学における知的財産の現状、知的財産の取扱規定と
知的財産戦略についてパワーポイントを使って講義します。
< II 部 > 15:10~17:00
「日米欧の特許を調査する方法」
講師：一般社団法人愛知県発明協会
愛知県知財総合支援窓口 相談員 山本 雅俊
・PCを使って先行特許文献調査の検索実演を行います。
必ず特許庁HPにワイヤレスアクセスできるPCをご持参下さい。

・テキスト：当日会場でお渡しします。
・定 員：20名
・参加費：無 料
・申込方法：所属、職名、氏名、TEL、E-mailを記入して頂き、
chizai@nagaku.nagoya-u.ac.jp へご連絡下さい。



本部スタッフのキャリアパスのイメージ

